

# さくら通信

平成21年11月8日

No. 18

発行者：下関深坂さくら友の会 下関市横野町1-13-1

TEL:083-258-3277 FAX:083-258-3234

E - メール: [hibiki-lc@gold.ocn.ne.jp](mailto:hibiki-lc@gold.ocn.ne.jp)

p

HP: <http://members3.i-com.home.ne.jp/chizan3/sakura/>

## 竹炭講習会

9月11日、小月で、竹炭(たけすみ)の講習会があり、福富、平野、野口の三名が参加した。将来、さくら友の会でも竹炭を作つはどうかという話が出ている。7~8時間で約20kgの竹炭を焼くことが出来る鋼板製の釜に興味を持った。

## 「9月定例会」

9月13日、「本日の弁当は41ヶ準備願います。」人数確認は整列するのが手っ取り早い。

この日は草刈、薦払い、桜の樹へのEM投与。

EM菌は、育ちの悪い桜にも投与してくれとの要望が出され試験エリアを定め12本の内、偶数番号6本に投与した。

## 「EM菌の効果」

9月18日(金)松枯れ防止策としてEM菌を投与した松を観察した。去る7月7日に投与した際、17本中9本に投与したが、投与しなかった松は松枯れが進行しているのに比べ、投与した松は、比較的緑が多かった。結果が予想以上だったので、前回比較する為に処置しなかった残りの松も枯死と断定した松を除き、回復可能か見る為、今回全てに処置した。

## 「臨時作業」

10月11日維持管理部会の臨時作業が行われた。会員全体の定例会は奇数月だが、その間の偶数月には維持管理部会が作業をする。頻繁な作業のおかげで、全体に草丈が低くなり、作業もし易くなった。この日は8名の参加。

## 「理事会」

10月19日に行われた理事会では、さくら友の会が市の指定管理者制度に応募するかどうかについて話し合われました。将来、深坂の森や森の家の管理も引き受ける可能性

があれば、指定管理者制度に応募して、資格を取る必要がある。メンバーを選定して更に検討することとなった。

## 「市民活動団体交流会」

10月31日(土)「しものせき市民活動センター」で、8団体45名の交流会が開催された。さくら友の会からは福富、上畠、西川、野口の4名が出席した。各団体は活動の現状を発表し、昼食を共にして親睦会が持たれた。

## 「ソメイヨシノに思うこと」

春になると深坂を彩るオーナー桜のほとんどは、ソメイヨシノである。

ご存知のように、ソメイヨシノは種子による繁殖はしない。接ぎ木によってその種を引き継いでいるクローン種である。

維持管理作業に携わっているメンバーはよく目にするとと思うが、不幸にも強風などで倒れてしまった桜や、折れてしまった桜の根元近くからは、新しい枝が天に向かって伸びている。

聞く處によると、ソメイヨシノの場合、その新しい枝は接ぎ木の原木であることが多いという。

なるほど、その木肌を観ると色合いなどが全く違っている。

つまり接ぎ木の元がヤマザクラであれば、ソメイヨシノからヤマザクラの枝が生まれてくるということになる。やがてその枝は幹となり、ヤマザクラとして育つて行くであろう。

そのような原種の力強さに感心すると同時に、ソメイヨシノの「華やかさ」と「儂さ」の共存した美しさは、その生命力の「脆さ」に由来するものなのではないかと、ふと、想うのであった。

(道坂 優)

## 「深坂の森は市民の財産」

深坂の森を、こんな風にしたいという夢、希望のアイデアを、事務局にお寄せください。それらを総合するプロジェクトチームを発足させ、下関市の森林整備課と相談し、実現に向けて一役買いたいと思います。また、そのアイデアを実現するためにプロジェクトチームに加わり、討議に加わったり、必要な写真を撮ったり、地図を描いたり、植物、昆虫、動物、小鳥などの調査などしてみたいという方も、事務局まで申込みください。何時実現するか分かりませんが、夢自身も財産として将来の子どもたちに引き継いで貢えるようなものにしたいですね。

## 予定

維持管理部会 12月13日(日)9時00分  
定例会 1月11日(日)9時00分